

令和8年 2月17日 みやさか活性化協議会

(会長)

平成 29 年に区長らが中心となり、西高東低と言われた岐阜県の状況下で、みやさか地域の少子高齢化や過疎化、坂下病院廃止問題に直面していた。神坂スマートインター開通により観光客誘致と定住促進を目指し、平成 30 年に協議会を発足させた。

隣接地区視察や観光資源の見直し・発掘作業を行い、市のがんばる地域サポート事業の協力を得て整備を進めた。

令和元年に文化庁の文化遺産活用事業認定を受け、DVD 制作、ホームページ、ガイド教本、観光コース検討を令和 3 年まで実施。3 年間で 2500 万円の補助を受けた。

令和 4 年にコロナ影響とスマートインター開通延期で活動が衰退気味となったが、令和 3 年頃に坂下地区も過疎地指定され、みやさか地区全体が過疎地となった。新しいみやさか地区構想を作成し地域に提言。スマートインター2025 年 9 月開通決定時にフィールドミュージアム事業計画を作成した。

昨年度から 2 回目の文化庁補助認定を受け、新たな観光コース整備と観光ガイド養成を実施している。

インター運用開始で観光客やインバウンド客は増加しているが、来場者増加や通過だけでは地域活性化に資さない。利用に関する苦情も出ている。

提言について市当局の考えを聞き、みやさか地域発展につなげたい。忌憚のない意見交換をお願いしたい。

(市長)

就任 2 年で 45 回目の対話集会となる。各地域各団体と幅広い年齢層でテーマに基づく対話集会を実施している。

従来の要望聞き取り形式ではなく、膝を合わせてテーマに沿った話し合いで地域をより良くする方向性を議論したい。

限られた時間で結論は出ないが、今後の取り組みのきっかけや一例となることを期待する。

(参加者)

馬籠を中心とした東山道、中山道、木曾街道、山口経由の飛騨街道の資源を地域活性化ツールとして使用する計画はあるか。また、長野県地区や飛騨地区との今後の観光・交流計画について聞きたい。

(市長)

神坂スマートインター開通で平日 800 台、休日 1200 台、11 月休日 1600 台の利用がある。NEXCO 目標 1300 台を 11 月は超過した。

街道筋を使った具体的計画は現在ない。中山道を通じて長野県木曾地域と連携し、日本遺産のつながりでフォーラムも実施している。

飛騨街道方面の下呂市・高山市もリニア対応を見据えて中津川市との接点を求めている。高山から濃飛バスが馬籠へ来る路線も復活した。

馬籠への一極集中を避け、市内観光地を周遊してもらい取り組みが必要。リニア開業に向けて市内観光地の掘り起こしと交通手段整備が重要である。

(参加者)

1995 年から 30 年間神坂スマートインター実現に携わってきた。開通 5 カ月で車両増加を実感し、救急車も高速利用で患者のためになっている。

交流人口増加を活用した地域活性化計画と方針を聞きたい。

(市長)

リニア開業と神坂スマートインター開通をどう生かすかが重要。神坂スマートインターの利用が増えるなか、中津川インターの利用は減っておらず、全体的に訪問者が増加している。

観光人口から交流人口、定住人口へつなげる取り組みが必要。地域を知ってもらい、良い経験をして再訪してもらえる取り組みを地域と一緒に考えたい。

川上(かわうえ)地区では集落支援員中心の移住体験ツアーやキッチンカー集合イベントで地域活性化を図っている。

各地域の良い取り組みを情報共有し、それぞれの地域で展開できるよう支援したい。市として具体的な地域活性化計画は現在ない。

(参加者)

Vivid みやさかのホームページを文化庁補助で作成した。インバウンド含むコンテンツが豊富なので、市役所や他地区と連携した周遊の仕掛けづくりを支援してほしい。

みやさか地域の手つかずの自然、歴史的遺産、文化などを調査してきた。馬籠宿は 60 年前のディスカバージャパンキャンペーンで栄えた。

平成・令和時代の観光変化と外国人観光客の増加を受け、ディスカバージャパンの原点に戻り、日本の心や原点、ふるさとを探った。

がんばるサポート事業支援の支援を受け、神坂サービスエリアから夕森公園までもみじ街道にする植栽を実施した。ガイド事業と新観光施設プランニングも開始し

ている。

市の観光資源を生かす新戦略・計画があれば聞きたい。また、神坂スマートインターへのアクセスがわからないとの声が多く、道路危険箇所や改良箇所、案内板・道路標識の今後計画を聞きたい。

(市長)

令和 8 年度から中津川市全体の新観光振興ビジョンを策定予定。がんばるサポート事業支援を受けた街道整備をどう盛り上げるか検討が必要。

誰を呼びたいかのターゲット設定(年代、性別等)と、そのための取り組み分析が重要。衆議院選挙での SNS 戦略を例に、ターゲットに応じた手法選択の重要性を説明。

神坂スマートインターの道路案内については、市と NEXCO で把握しており、看板設置を調整中。できるだけ早期設置を目指している。

(参加者)

弥栄橋信号の道路標識に「馬籠」が入っていない。街道開通時にまち協会長が要望し年度末までに対応予定だったが、10 年以上経過しても未対応である。

(市長)

国道管轄のため市から国道事務所に伝えて回答する。

(参加者)

冬場の融雪剤散布が不十分で事故が多発している。住民から不安と不満が出ているので業者に伝えてほしい。

(市長)

具体的な場所を後で教えてもらえればありがたい。

(参加者)

文化庁補助でホームページ「Vivid みやさか」の制作、史跡紹介 DVD やガイド教本作成、文化遺産修復、観光ガイド育成を実施してきた。

情報発信について資金面で限界があるため、市でどのように補完してもらえるか見解を聞きたい。

(市長)

ターゲットの設定が重要。ホームページの最大の問題は更新しないこと。更新され

ていないと活性化していないと判断され逆効果になる。
継続的な情報発信が重要で、月 1 回でも小さな更新が必要。誰に向けるかで発信方法も変わり、マップも紙かデジタルか、多言語化の範囲も目的次第。
継続には地域内での人材育成が最も有効。私自身も SNS を運営している。やるかやらないかの問題。
市として、サポートや、人材育成も可能だと思う。

(参加者)

観光と移住定住を継続してきたが、空き家が多く、皆の協力が必要。UI ターン住宅や市営住宅が空いているので SNS で PR し、一旦住んでもらってから周辺に家を建ててもらおうなど、市の協力を受けながら、発信していければ。
空き家バンクの利用者が少ないため、PR を市長と一緒に進めたい。数年前に東海地区の子育て世代が住みたい田舎部門で、中津川市が 1 位だったが実感がない。学校の統合や過疎化が進むなか、坂下病院民営化断念で診療所となったが医師高齢化への不安がある。現状と今後の方針を住民に知らせてほしい。

(市長)

人口減少は中津川市全体、かつ全国の地方都市共通の課題。令和 9 年度から次期総合計画が始まるが、人口減少は大きな課題の 1 つ。
定住人口の増加は困難なため、まずは観光で中津川を知ってもらい、関係人口、交流人口へと、段階的なアプローチが重要。リニア開業で東京 1 時間、名古屋 15 分の立地を生かしたい。
空き家については、購入よりも賃貸ニーズがあり、移住体験的な利用希望者とのマッチングが重要。OG バンクなどでも対応している。
みやさか 4 地域の連携した取り組みは市にとってありがたく、それぞれの特性を生かした活動に期待。外国人観光客が評価する「何もない素朴さ」など、住民が気づかない資源の掘り起こしが重要。
大学生の調査では、初めての訪日旅行で馬籠を選ぶ外国人がいることから、まだまだ可能性がある。豊かな自然を売りにするしかないと考えている。
食も重要な要素で、日常の食卓に並ぶ料理が訪問者には珍しい資源となる可能性がある。

(参加者)

名古屋勤務時代に新幹線通勤が認められ、大阪から 45 分で通勤する人がいた。リニアでは東京通勤も可能になるので 10 年計画に含めてほしい。

(参加者)

60億円のスマートインター投資の経済効果が重要。神坂スマートインターに「馬籠」の表示がないのが問題。関東方面から来た時に木曽と下呂の標識があるだけで交通渋滞緩和になる。

神坂パーキングエリアの壁に木曽、平田、高山、中津川市内の付知、夕森などの大きな看板をつけるだけで宣伝効果が大きい。

木曽は長野県のネックで人口減少が深刻。木曽病院の産婦人科が4月からなくなる。30年前に議員総会で発議された神坂スマートインターは木曽にとって命綱。行政枠を超えて自然歴史文化で木曽とつながろうと話している。日本遺産から世界遺産を目指してリニアに向けて取り組んでいる。

坂下病院も木曽や大桑、南木曽の住民が利用している。木曽でまとまって長野県に話し、みんなで固まって取り組んでいる。

(参加者)

1月に知事に会い世界遺産の話をした。御岳山と中山道、木曽、木曽川電源開発をセットにした世界遺産を知事も良いと評価した。市長にも検討してほしい。川上の原家(庄屋の文化財)が昨年秋に大分本社・福岡拠点の観光会社に売却された。詳細は川上まち協会長が知っている。

(市長)

原家を訪問したことがある。ネットワークを活用した上手な運営で、みやさかや中津川市への広がり期待している。

(参加者)

会長は東山道にも興味を持っているので開発を含めて期待している。

(参加者)

「何もない風景」を観光資源として活動してきており、ガイド本にも網羅している。市の協力をお願いしたい。

5年前に作成したホームページが更新されておらず、人口データの指摘を受けた。作成時5000人程度だったが現在4000人を切っている。

みやさか活性化協議会の予算は区長会からの資金で運営している状況。利用してもらえるなら市からの予算援助をお願いしたい。

8年度からの観光ビジョン作成でターゲット設定は重要だが、具体的ビジョン作成時は地域意見も聞いてほしい。

リニア開業を狙った計画が延期続きで、開業時にはみやさか地域人口が300人

程度になる懸念。開業を待たず積極的な取り組みを求める。

令和 3 年作成の過疎地域持続的発展計画書の令和 8 年度版を見たが内容が変わっていない。乙姫公園計画も 3 年間実績がないまま継続されている。

がんばる地域サポート事業が 8 年度から廃止されているが問題ないか。五平まつりも山口では実施していないのに市補助での継続予定の意味が不明。

(参加者)

今夜、坂下診療所存続に向けた検討状況中間報告を聞く機会がある。やさか区長会とまちづくり協議会役員が参加予定。

地域として診療所を長期間残してほしいとの強い要望を伝えてきており、その方向への進捗を確認したい。

観光資源について、スマートインターとリニア開通は地域まちづくりの転換点でありチャンス。市長の「点から線へのまちづくり戦略」方針の実現時期と考える。

観光動線には「動く動線」(観光客が自分で作る)と「導く動線」(知られていない資源を組み込む)がある。導く動線で予定外の資源に触れてもらう戦略を中津川市全体で作る機会。地域のフィールドミュージアム構想を活用してほしい。

(参加者)

平成 30 年発足のボランティア団体として地域への思いで活動してきた。今日の提言と市長の言葉で共通点の多さを確認できた。

同世代として、今後この地域に住む人や来る人が安心して楽しい地域を作る責任がある。今後もこのような機会をいただき、みやさか地域を点から線、さらに面へと発展させ、中津川市全体や木曾まで広げた地域づくりを進めたい。